

レフリーレポート

山口茂朗

【参加大会】

7月1日（土）～2日（日）全国西地区クラブ選手権大会

【研修内容の報告】

- 前半でイエローカードを使いながら選手に罰則の基準を伝えていくので、後半はイエローカードを使わない、という審判としての姿勢がこれからのハンドボールの基準になると審判会議の際に強調して指導があった。また、前半のうちに、同じ基準で罰則の徹底を吹笛して選手・チームに知らせること。
- エリア際での攻防に関しては、ポストプレーヤーを激しくつかんでいても、シュートの瞬間に手を放していれば罰則をつける必要がないので、丁寧に判定する必要がある。
- ドリブルの後のステップに関しては、審判員の目標項目でもあるので、丁寧に判定する必要がある。
- ライン内防御に関しては、シュートに影響があったかどうかで判定をする。また、ライン内での防御に関して、警告や退場になる場合の判定基準を明確に理解しておく必要がある。
- ラスト 5 分間で、しっかりとダッシュをすること。また、気持ちを切り替え、集中力を維持して吹笛していく意識が必要である。点差のあるゲームである時ほどダッシュと気持ちの入れ替えは厳正な判定には重要である。レフリー自身がしっかりと走りながら、試合に同化することが重要である。反則が起こった時にはすぐその場に行き、何かあったら、選手とコミュニケーションが取れるようにすることが重要である。
- 強弱のある笛を吹くことが重要であるが、それと同時に選手の罰則に関しては厳しい表情でカードや退場を示すことが必要である。
- スローオフを開始する時に選手を追い越さずに、選手全体が見える位置で見ることは大切である。また、選手の遅延行為に対しても早めに対応する。
- 時間を止めずに試合を運営することが必要で、チェンジボールなどの時は、時間を止めない。いつ競技が始まったかを明確にするためにも再開の笛を必ず吹く。
- 時間を止め、再開する時は、ペア、オフィシャルの順に確認し、再開の笛を吹く。

今後とも各種大会に参加しながら自己研鑽に努めていきたい。